

2017年度 事業計画

I. 年間主題 「新たな40年に向かって設立理念の再確認と新たな出発」

開園祭テーマ 「創立40周年後の重症児者の必要に応える道の探求」

II. 施設運営の基本方針

1. 「在宅支援プロジェクト」の継続

- ・在宅支援棟関連事業も「重症者ホームひさやま」の運営も途上にあることの認識を持つ
- ・在宅支援センターの整備と深化：利用者個々人と総利用件数の推定～必要人員の確保

2. 障害者総合支援法施行後3年の見直しと久山療育園の取組

- ・「障害支援区分」の認定（3年ごとに再認定）・支給決定
→療養介護サービス費の推移、障害福祉サービスの動向の注視
- ・65歳に達した重症心身障害者に障害福祉サービスから介護保険法の優先を適用するリスク等

3. 社会福祉法 改正への対応

- ①施設運営のガバナンス（統治性）の確立・強化と地域連携～行政も優遇税制を受ける公益法人の資格審査にガバナンス（統治性）と組織の明確化を求めている
- ②資産の創立理念にかなう活用：公益性、福祉事業への再投下、地域福祉への貢献、人材育成
- ③事務管理部門の整備と「在宅支援三本柱」を担う地域療育部の拡大深化
- ④ライン（組織構成）とスタッフ（委員会組織など）における園内の事業の分担協力を円滑に行う

4. 利用者（重症児者+家族）の必要の吟味

- ※「療育病院」であること：久山療育園の「医療療育」、「児者一貫」
- ①「支える医療」「共なる医療」、②「チーム医療」から「チーム療育」へ、③「重症心身障害」に特化した医療福祉施設としての役割を堅持する
 - ②「在宅支援三本柱」の進展と小児医療の充足。“移行期医療”→小児科医と内科医等との連携受入れ可能な年齢+医療度の再吟味
 - ③利用者の年長化・高度化への対応：1) 合併症と外科的処置～地域医療連携、2) 骨折防止 等
 - 1) 児童発達支援及び障害児医療の取組
 - 2) NICU・GCU・小児病棟から家庭までの中間施設（又は中長期滞在型の一時入所病床）
→1～2床を月単位のローリングベッドとしての活用可能性の検討

III. 創立理念の再確認と新たな出発（これからの40年）要旨

1. 「設立の目的」から

- ・「重症児者と共に」：在宅及び入所重症児者の必要に聴く診療計画・個別支援計画に基づいた運営
- ・「重症児者が地域の中心に」：在宅支援から終の棲家まで

2. 「運営基本方針」から

- ・「キリストの福音を土台として」：
 - 1) 重症児者の生命の尊厳と QOL（生活の質・命の質・人生の質）の向上に応える「医療と療育」
 - 2) コロニー友の会・諸教会及び保護者会との協働
 - 3) 「生きるに価しない生命と言わせない」：経済至上や効率優先が差別や格差、生命の軽視を招いた社会に抗して。注）相模原市津久井やまゆり園事件について：この凄惨な事件の本質は、優性思想や生命の尊厳の軽視・拭いがたい差別を許している社会的背景が危惧される

3. 「療育基本方針」から

- ・「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である」
- ・「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支え、QOL（生活の質・生命

の質・人生の質)を重視

4. 「在宅支援と地域連携基本方針(案)」から

- ・地域にとってなくてはならない重症心身障害施設であるために
- ・「在宅支援三本柱」の重視：地域福祉や地域連携の調整

5. 更なる役割の確認と地域への展開

- ・地域連携：「福岡県地域医療連携」に果たす役割と調整
- ・「重症心身障害児(者)を守る会」との協働

IV. 途上にある「在宅支援プロジェクト」の推進と新しいビジョンの策定

(1) 「在宅支援三本柱」の推進

- ①重症心身障害児(者)通所事業：成人(生活介護事業)＋児童(児童発達支援)／定員26名
- ②短期入所事業：在宅を支える要として。相談支援員～看護部・診療部との連携
- ③訪問事業：訪問リハビリテーション

(2) 新たな3段階の傾斜配置へ：「在宅支援プロジェクト」途上の利用者像

- ①医療重点型(めぐみ棟)：42床(うち短期3床)医療度の高い利用者(超重症児者等)
- ②療育重点型(ひかり棟)：52床(うち短期3床)
- ③「重症者ホームひさやま」(定員10人)；共同生活援助事業、夜間生活の場-----個室ケア

(3) 新生児集中治療室(NICU)～「継続保育室」「回復治療室」「発育支援室」(GCU)～小児病棟：在宅への移行支援の受皿として中長期滞在型一時入所病床2～3床増床の可能性

- ①児童発達支援及び障害児医療の取組：常勤小児科医の確保
- ②NICU・GCU・小児病棟から家庭までの中間施設(又は中長期滞在型の一時的入所病床)

(4) 重症心身障害児者の家族と共なるコミュニティ形成の可能性

- ①経営努力と支援者献金の蓄積の結果である内部留保金の活用
- ②久山療育園重症児者医療療育センターを核とした福祉計画
- ③「重症者ホーム」に続く「要介護家族ホーム」計画